

## 旅するムサビプロジェクト

「旅するムサビプロジェクト」(通称：旅ムサ)は、2008年に学生が制作した作品を中学校に持参し、作品鑑賞を行ったことからスタートしました。代表的な取り組みとして「対話鑑賞」や「黒板ジャック」、学生の公開制作、子どもと一緒に取り組むワークショップなど多岐にわたります。美術の楽しさや、見方や感じ方の多様性を子どもたちに伝えるとともに、学生自身のコミュニケーション能力やファシリテーション能力の向上、そして現場教員の研修や授業改善に大きな成果を出し、関係者全員がともに学びあうという、これからの美術教育の可能性を広げ続けていきます。

- 鑑賞や制作風景を通して「美術の楽しさ」を伝える
- 作品を囲んで対話を行い、感想や気づきをわかち合う
- プロジェクトを通しともに学んだことを生活や社会に活かしていく



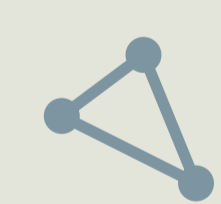
図工室の机を立てて作品展示。子どもの質問に答える。長野県岡谷市立長地小学校



普段は見せないが、この時は描いている所を見せてみた。長野県青木村立青木小学校



子どもたちと朝から描いた作品の前で記念写真 三重県伊勢市立大淀小学校



連携先

小中学校、教育委員会、美術館など



担当教員

三澤一実(教職課程)



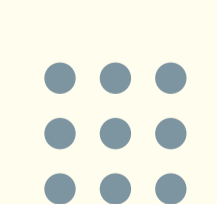
実施期間

2008年～



参加学生の学科

全学科



参加学生人数

のべ3,000人以上